

離乳期における食品の摂取開始時期ならびに 摂取食品の種類と育児環境の関係について

熊沢昭子・堀田 之*・船橋達郎**

Relation between Nursing Conditions and the Starting Time and Kinds of Food in the Weaning Period in Infants

by

A. KUMAZAWA, I. HOTTA and T. FUNAHASHI

緒 言

わが国における乳幼児の栄養問題のうち、いわゆる離乳期の栄養法に難点のあることはしばしば論ぜられているところである。この離乳期の栄養摂取の問題点を解決するために、従来より栄養摂取量の不足およびその質が劣ることが市橋(1951)、飯島(1952, 1956)、壺岐(1956)、松島(1956)らによって明らかにされている。さらに堀田ら(1957)は離乳遅延が発育に影響することを立証している。著者ら(1962)もすでに報告したように婦人労働のはげしい農村地域を選んで離乳遅延の実態を把握した。

一方、飯島ら(1952, 1956)は離乳開始時期に関係する因子をあげて、その育児環境について述べている。このようにこれらの研究はかなり多面的に進められているが、育児環境の持つそれぞれの因子が、離乳期においてどのような食品の摂取開始に影響を与えるものであるか、その関係はいまだ見当らない。ここにおいて離乳期の乳児に望ましい食品類の摂取開始時期と、摂取される食品の種類をはばむ育児環境の要因を探り出して明らかにすることは、適切な育児指導方法を打ち出す上に必要であると認め、この調査を行なった。

調 査 方 法

対象は愛知県津島保健所管内の1町4村の5カ月～16カ月の乳幼児457名とし、昭和38年3月、保健所の行なった乳幼児一斉検診の際および家庭訪問により、付添者に対して聞き取り調査を行なった。

質問事項は下に示す8種類の食品群について、生後何カ月より摂取し始めたかを確かめた。

食 品 分 類

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. かゆ類(軟飯を含む) | 5. 野菜類 |
| 2. 卵類 | 6. 果実類 |
| 3. 魚類 | 7. 油脂類 |
| 4. 肉類 | 8. せんべい類(ビスケット類を含む) |

育児環境の要因としては前に報告(1962)したのと同じく4種類にした。

* 名古屋大学医学部公衆衛生学教室

** 愛知県津島保健所

育児環境因子

1. 主な哺育者の別
母, 祖母.

2. 哺育に関する知識の獲得方法別

医療機関, 保健所, 専門書, テレビ, ラジオなどを利用して知識を得ている人々の群を合理的であると判定した.

自分の思うようにする. 経験者(主に祖母)より聞くという場合を非合理的であると判定した.

3. 哺育者の職業の別
有, 無.

4. 哺育者と家計者
一致, 不一致.

計 算 方 法

1. 育児環境別に各食品類の摂取月令の百分率を求めたのち, χ^2 -test により両群間の差の検定を行なった.

2. 検定月令をきめるについては, あらかじめ対象者全数について各食品別に月令毎の摂取者の百分率を求め, 月令が進むにつれての上昇率を算出し, その累加摂取率の50%近くを検定月令とした.

調 査 成 績

I 食品の摂取開始時期と育児環境因子との関係

1. 主な哺育者の別

食 品 類	検 定 月 令	母 (N=357)		祖母 (N=96)		Chi Square test	
		例 数	摂取率	例 数	摂取率	χ^2 値	判 定
か ゆ 類	7	139	38.9	36	37.5	0.075	
卵 類	7	209	58.5	17	18.5	6.104	※
魚 類	10	139	38.9	36	37.5	0.075	
肉 類	14	157	44.0	35	36.5	1.752	
野 菜 類	6	122	34.2	18	18.7	4.860	※
果 実 類	6	226	63.3	44	45.8	1.160	
油 脂 類	12	131	36.7	35	36.5	0.051	
せ ん べ い 類	6	190	53.0	45	46.8	1.221	

Table 1. 哺育者別に上る食品摂取率

※: 5%以下の危険率で有意差あり.

母哺育児群が8種類に分類した食品のうち卵類, 野菜類の摂取が早いことが有意差をもって証明できた.

2. 哺育に関する知識の獲得方法別

食 品 類	検 定 月 令	合理的 (N=279)		非合理的N=(144)		Chi Square test	
		例 数	摂取率	例 数	摂取率	x^2 値	判 定
か ゆ 類	7	90	32.3	54	37.5	0.129	
卵 類	7	165	59.1	80	55.5	0.538	
魚 類	10	90	32.3	36	25.0	0.035	
肉 類	14	90	32.3	54	37.5	1.162	
野 菜 類	6	81	29.0	54	37.5	0.348	
果 実 類	6	216	77.4	54	37.5	7.284	※※
油 脂 類	12	90	32.3	45	31.3	0.049	
せ ん べ い 類	6	162	58.1	81	56.3	0.014	

Table 2. 知識の得かた別による食品摂取率

※※ 1%以下の危険率で有意差あり.

合理的と判定した人々の群が、非合理的と判定した人々の群より果実類の摂取が早いことが認められた.

3. 哺育者の職業の別

食 品 類	検 定 月 令	有 (N = 159)		無 (N = 296)		Chi Square test	
		例 数	摂取率	例 数	摂取率	x^2 値	判 定
か ゆ 類	7	30	18.7	129	43.6	2.722	
卵 類	7	46	28.9	159	53.7	4.538	※
魚 類	10	38	23.9	122	41.2	1.778	
肉 類	14	61	38.4	114	38.5	0.009	
野 菜 類	6	23	14.5	137	46.3	4.773	※
果 実 類	6	84	52.8	178	60.1	2.260	
油 脂 類	12	46	28.9	129	43.6	1.302	
せ ん べ い 類	6	76	47.8	175	59.1	0.071	

Table 3. 職業別による食品摂取率

※ 5%以下の危険率で有意差あり.

職業の無い群に卵類, 野菜類の摂取が早いことを認め得た.

4. 哺育者と家計者の一致、不一致の別

食 品 類	検 定 月 令	一 致 (N = 319)		不 一 致 (N = 138)		Chi Square test	
		例 数	摂 取 率	例 数	摂 取 率	χ^2 値	判 定
か ゆ 類	7	125	39.2	48	34.8	0.794	
卵 類	7	115	36.1	40	29.0	2.117	
魚 類	10	98	30.7	35	25.3	1.341	
肉 類	14	151	47.3	60	43.5	1.915	
野 菜 類	6	115	36.1	45	32.6	0.501	
果 実 類	6	230	72.1	90	65.2	0.314	
油 脂 類	12	121	37.9	45	32.6	1.180	
せ ん べ い 類	6	200	62.6	81	58.7	0.651	

Table 4. 哺育者と家計者の別による食品摂取率

いずれの食品類においても、両群間に開始時期の有意差は証明できなかった。

Ⅱ 摂取食品の種類と育児環境因子との関係

「かゆ類」を摂取し始めた月令を中心に、前後1カ月をみた場合、他の食品類を幾種類併わせ摂っているものか、要因別に組み合わせて検討した結果は次の通りである。なおこの方法は、食品類をA, B, Cの3種類に大きくわけ、2種類以下の摂取をしている人々の群と3種類とも摂取している人々の群に分け、 χ^2 -testにより検討したものである。

A = かゆ類

B = 卵類, 魚類

C = 野菜類, 果実類

{ 2種類以下摂取, Aのみ, A+B, A+C
 { 3種類とも摂取, A+B+C

1. 主な哺育者の別

上に記した食品群を3種類とも摂取している者は祖母哺育児群より母哺育児群に多いことが証明された。

2. 哺育に関する知識の獲得別

合理的と判定した群が、非合理的と判定した群より3種類とも摂取している率が高いことを認め得た。

3. 哺育者の職業の別

両群間に差はみられなかった。

4. 哺育者と家計者の一致、不一致の別

両群間に差はみられなかった。

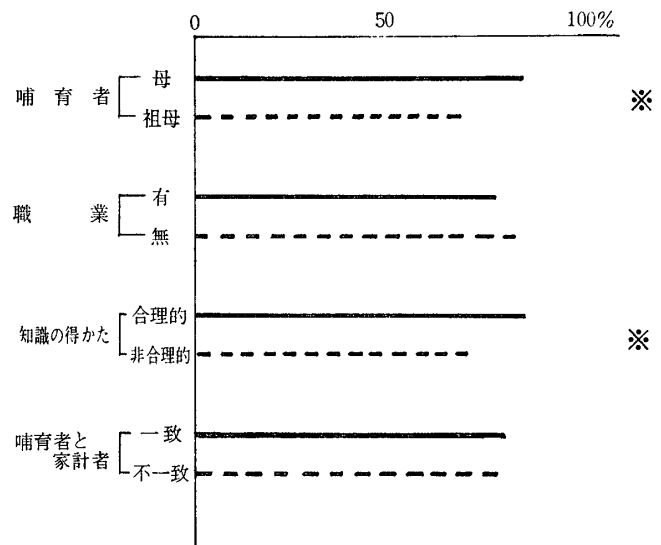


Fig. 1. 3種類とも摂取している群の率

考 察

I 離乳期において、その摂取食品の開始時期に影響する要因として、「哺育者」、「哺育知識の獲得方法」、「哺育者の職業」、「家計者と哺育者の一致、不一致」などをあげたが、「哺育者と家計者の一致、不一致」の別の項目を除いては、それらのいずれの因子にも影響されるといい得る。すなわち食品類中「かゆ類」、「せんべい類」などの澱粉性食品の摂取開始時期は各因子とも両群間に差は認められないが、「卵類」、「野菜類」、「果実類」の摂取開始時期では、育児環境により違いがみられる。したがって今回の調査成績においては、「母哺育児群」と「職業の無い群」は「卵類」、「野菜類」の摂取が早く、「哺育知識の合理的な得かたをしていると判定した群」は「果実類」が目立って早い状態にある。

II 摂取食品の種類が「かゆ類」のみ、または「かゆ類」+「野菜類」、「果実類」という単純型と、栄養のバランスからみて、「かゆ類」+「卵類」、「魚類」+「野菜類」、「果実類」と一応万遍なく組み合わせて摂っている型とに分けて考える時、哺育者側の因子によって与え方に差が生ずる。すなわち「母哺育児群」と「知識の得かたが合理的であると判定した群」は食品の種類が豊富であり、「祖母哺育児群」で「知識の得かたが非合理的であると判定した群」は摂取食品の種類が少なく片寄っていると推察される。

以上のI、およびIIの結果より、摂取の片寄っている群では、「離乳」とは「飯類」を食べさせることであるという風に現在でもなお考えられているようにうかがえる。これに反し若い層である母親で、育児知識を専門書や保健所などより得ている者は、「飯類」のみにこだわることなく、むしろ「卵類」、「野菜類」、「果実類」を早期より与えるようにして、「飯類」を与え始める頃には、もはやそれらの食品が優先している状態にあるといえる。

要 約

離乳期の栄養摂取についての問題点を解決する方法のうち、食品摂取開始時期と与えられる食品の種類について、育児環境の差により、どのような違いがあるものかと検討することにより、育児指導上、いずれの面を強調したらよいかを確かめるためこの調査を行なって次のことを知り得た。

食品摂取開始時期が早く、その上「かゆ類」などの澱粉性食品に片寄ることなく、各種類の食品類を組み合わせて望ましい摂り方をしている群は「母哺育児群」で「知識を合理的に得ていると判定した群」であるといえる。

「祖母哺育児群」で「知識の得かたが非合理的であると判定した群」はその対比である。

したがって指導方法としては、若い母親層に正しい育児知識を積極的に導入してゆくことを実行することが必要であり、効果的であると考えるものである。

参 考 文 献

- 市橋治雄 他：1951. 母乳栄養児における離乳状況の一観察，小児科臨床，4巻，4号.
- 飯島 孝 他：1952. 離乳の実態，小児科臨床，5巻，7号.
- 飯島 孝 他：1956. 離乳に関する調査成績，小児科診療，19巻，9号.
- 松島正視 他：1956. 農村の離乳，小児科診療，19巻，4号.
- 壺岐 寛 他：1956. 山口県西部地区離乳期乳幼児の食餌に関する調査，臨床小児医学，4巻.
- 堀田正之 他：1957. 離乳期栄養障害症，小児科診療，20巻，1号.
- 堀田 之 他：1962. 育児条件の離乳開始時期におよぼす影響，第18回日本公衆衛生学会発表.
- 熊 沢 昭 子：1962. 離乳期における食品摂取の調査，名古屋女学院短大紀要，8号.